

2016年3月期 第3四半期 決算参考データ

2016年1月28日

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

本資料に記載されている業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定要素を含んだものです。実際の業績は、経済情勢をはじめさまざまな要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おきください。

2016年3月期第3四半期 業績(前年同期比)

単位:億円

主な増減要因

	2014年度 Q3 実績(累計)	2015年度 Q3 実績(累計)	前年同期比	
				増減率
売上収益	2,558	2,517	▲40	-1.6%
売上総利益	603	575	▲27	-4.6%
(売上総利益率)	(23.6%)	(22.9%)	(▲0.7p)	-
その他の収益及び費用	▲449	▲476	▲27	+6.0%
営業利益	153	99	▲54	-35.6%
(営業利益率)	(6.0%)	(3.9%)	(▲2.1p)	-
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	95	62	▲33	-34.7%
受注高	2,478	2,501	+23	+0.9%
受注残高	1,875	2,000	+125	+6.7%

【売上収益】

携帯キャリア、コンビニ向けなどで減収。

【売上総利益】

不採算案件減少も、減収及び売上総利益率の低下により減益。

【その他の収益及び費用】

人件費、研究開発費などの販売管理費が増加。

【営業利益】

売上総利益の減少、販売管理費の増加により減益。

【受注高】

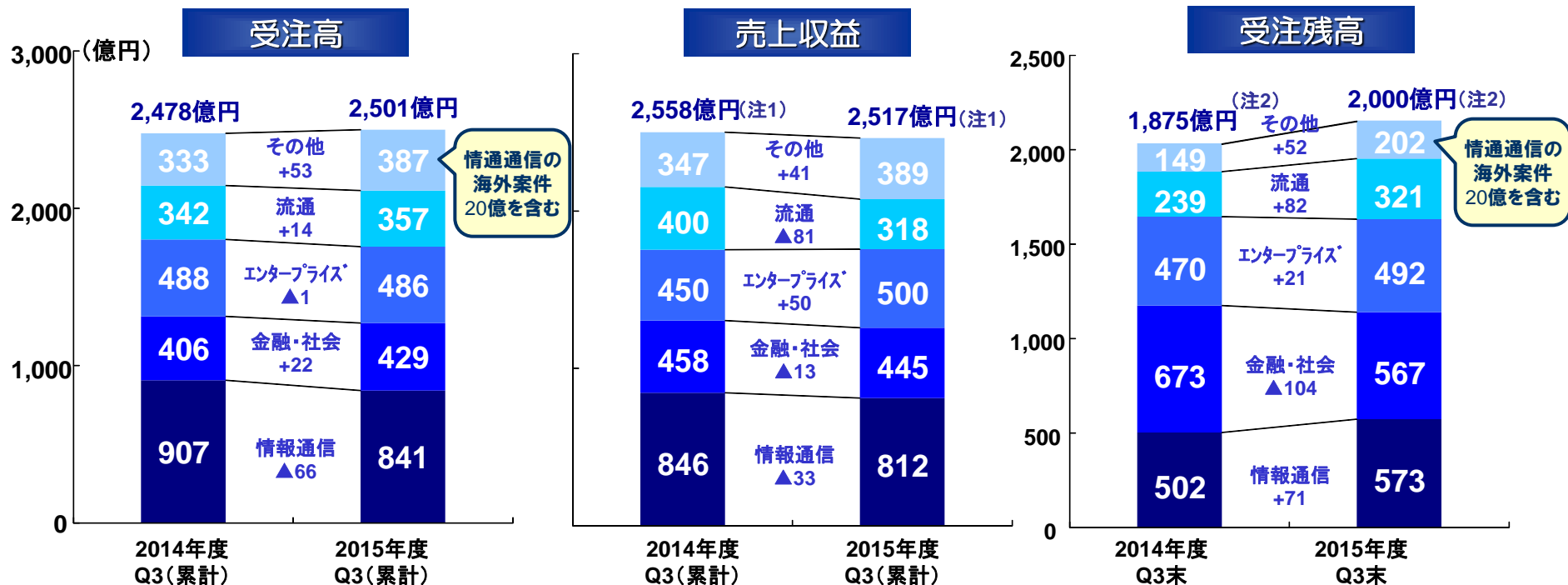
金融向けや海外事業会社などで増加。

【受注残高】

携帯キャリア、コンビニ向けなどで増加。

事業グループ別実績(前年同期比)

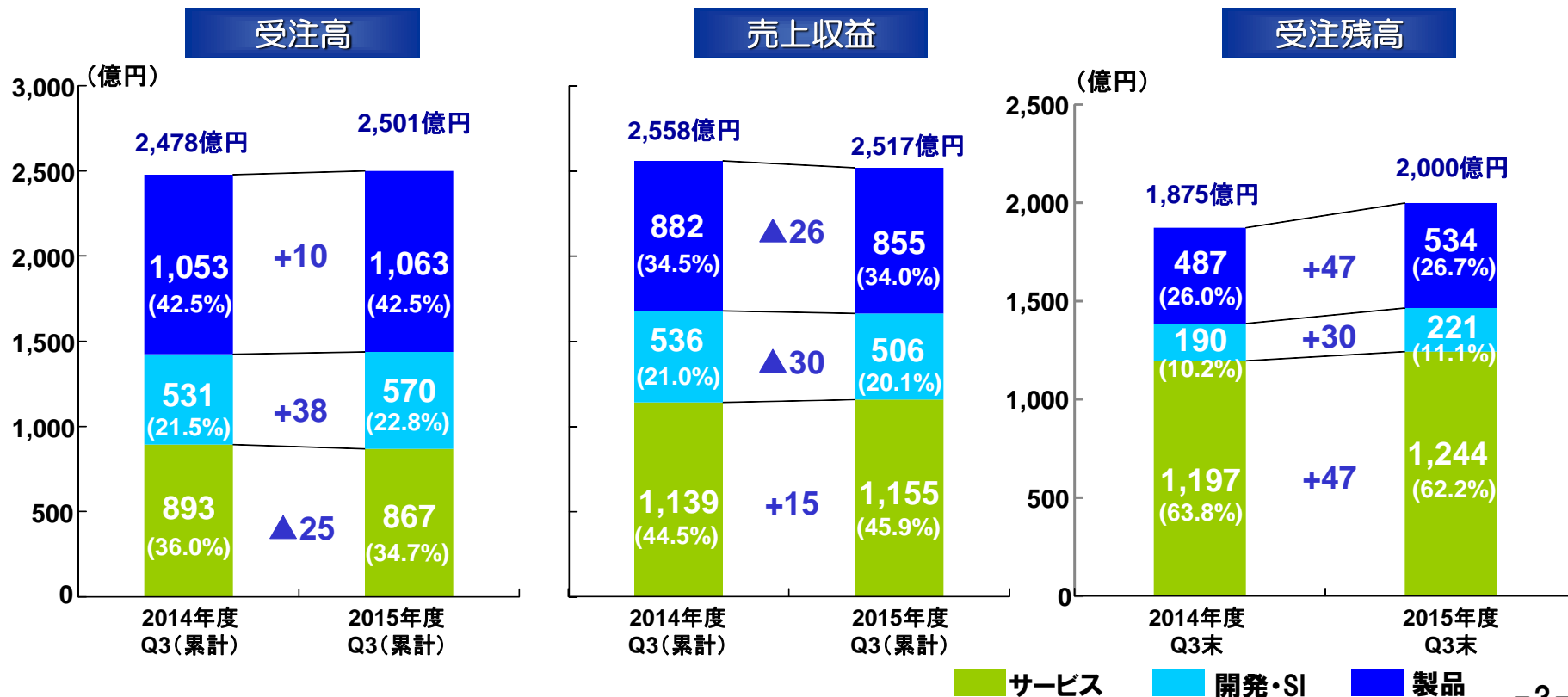
- 情報通信：受注/売上ともに携帯キャリア向けネットワーク案件が減少。
- 金融・社会インフラ：受注は金融向け開発案件やサービス案件が増加。
売上は電力系通信会社向けネットワーク案件などが減少。
- エンタープライズ：受注は前年並み。売上は精密・製造向け共通基盤構築案件や運輸向けサービス案件が増加。
- 流通：受注は商社向け開発案件や、不動産向けサービス案件が増加。
売上はコンビニ向け店舗システム案件や食品卸向け開発案件などが減少。
- その他：受注は海外事業会社のサービスプロバイダ向けインフラ構築案件や金融向け製品ビジネスが増加。
売上は同金融向け製品ビジネスが増加。



(注1) グラフに表記していないIFRS調整分：14年度 +55億円、15年度 +51億円含む
 (注2) “ ”：14年度 ▲159億円、15年度 ▲156億円含む

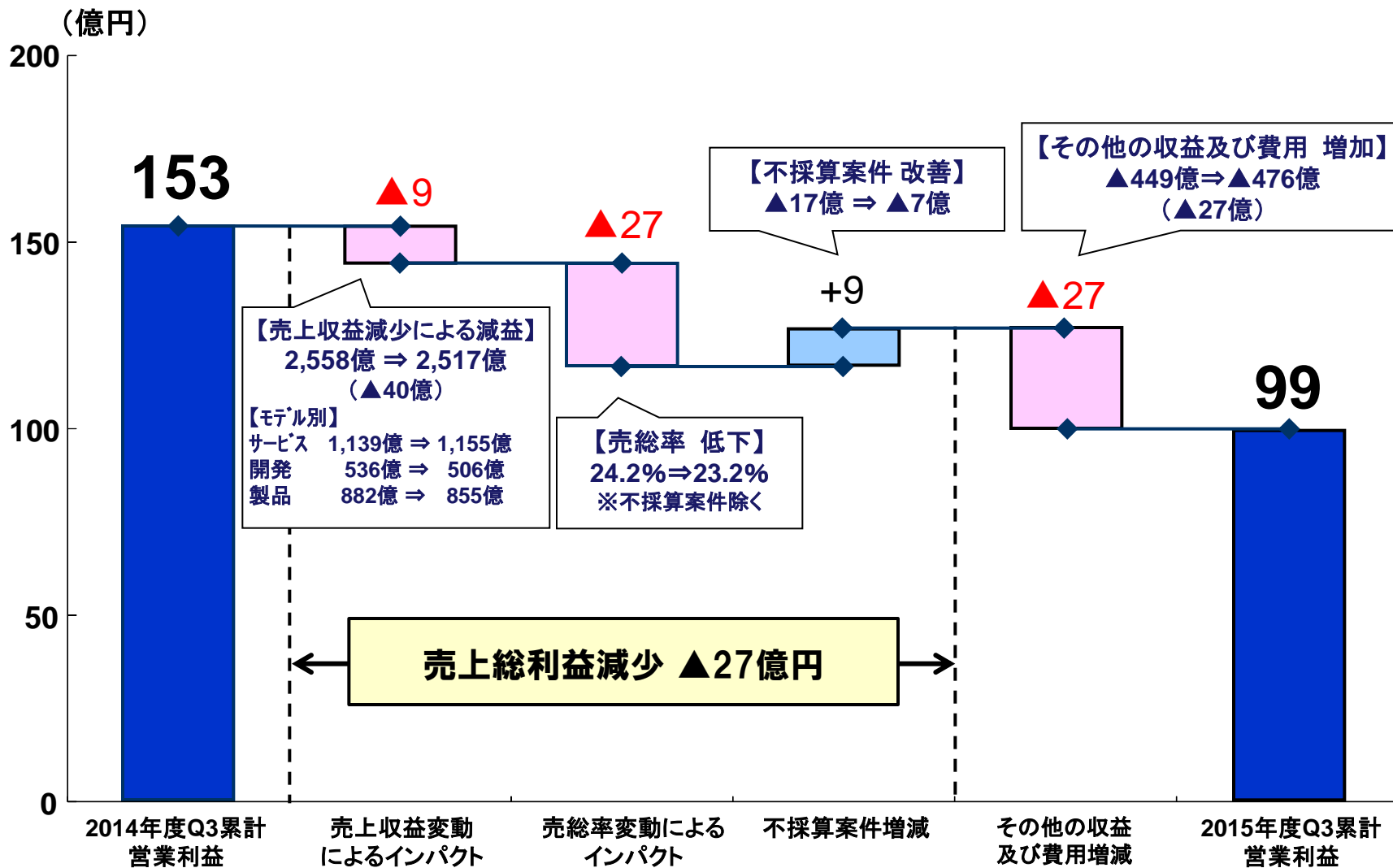
ビジネスモデル別実績(前年同期比)

- サービス： 受注は携帯キャリア向けネットワーク構築や、海外事業会社の製品保守が減少。
売上は公益分野向けの製品保守・システム運用などが増加。
- 開発・SI： 受注はメガバンク向けや商社向け開発が増加。
売上は携帯キャリア向けや公益分野向けインフラ構築、食品卸向け開発が減少。
- 製品： 受注は海外事業会社のサービスプロバイダー向けや金融向けサーバが増加。
売上は携帯キャリアや電力系通信会社向けネットワークやコンビニ向け店舗関連機器が減少。



■ サービス ■ 開発・SI ■ 製品

営業利益増減要因(前年同期比)



(参考) その他の収益及び費用 内訳

単位:億円

		2014年度Q3 実績(累計)	2015年度Q3 実績(累計)	前年同期比	主な増減要因
人件費	人件費	▲270	▲277	▲6	社員数及び給与・賞与増
	委託社員受入費	▲45	▲44	+1	
	減価償却費	▲21	▲22	+0	
	その他	▲121	▲135	▲13	研究開発費 ▲6億 オフィス移転費用 ▲1億 情報システム関連費用 ▲1億 租税公課 ▲2億
販売費及び一般管理費計		▲460	▲478	▲18	
その他の収益計		11	3	▲7	為替差益 ▲8億
その他の費用計		▲0	▲1	▲0	
その他の収益及び費用計		▲449	▲476	▲27	

CTC

Challenging Tomorrow's Changes